

【復興2次】被災地(宮城県気仙沼市)におけるPFIを活用した 観光拠点施設整備等事業に関する支援等業務

内閣府 民間資金等活用事業推進室

目的

宮城県気仙沼市では、「気仙沼市震災復興計画」において、「本市震災復興を実現する重点事業」として位置づけられた気仙沼大島の交通・集客拠点の整備事業に取り組んでおり、平成30年度に完成が迫る大島架橋の完成に向けて、架橋や観光船などを利用して大島にわたる観光客等を迎える総合的な玄関口としてウェルカム・ターミナルの整備を行うとしている。また、震災により被災した亀山リフトを代替する、亀山山頂までの輸送手段についても検討している。

本業務では、ウェルカム・ターミナルをPFI事業として実施するにあたり想定される事業スキーム等を整理するとともに、亀山山頂への最適な送客手法について、事業採算性の観点からも検討を行ったうえで、一体的なPFI事業として実施した場合に想定されるPFI事業スキーム(案)等の構築を検討した。

案件概要

整備概要

観光客を迎えるための産地直売所等を備えたウェルカム・ターミナルとともに、大島の観光資源である亀山山頂までの送客手段を整備し、亀山や田中浜といった自然の観光資源を生かした一体的な整備を行う。

ウェルカム・ターミナルの施設概要(基本構想段階での案)

敷地面積	7,660m ²
建築面積	1,200m ²
延床面積	400m ²
外構	2,400m ²
駐車場(170台)	4,000m ²

ウェルカム・ターミナルは、基本構想において整理されたモデルケースを前提とする。施設内には、カフェ、産地直売所、事務所、備蓄倉庫、待合所、多目的ホール、半外部空間等を整備する想定である。

亀山山頂への最適な送客手法の検討概要

亀山山頂への送客手法は、大島全域の今後の観光施策、大島架橋完成による影響、大島ウェルカム・ターミナルのあり方、自動車及びフェリーを利用した観光客の交通動線等を複合的に捉えて検討する必要がある。

そこで、市のニーズと亀山の現状を踏まえたうえで、亀山観光再生の実現に向けて、交通計画の視点から、シャトルバス、リフト等想定される送客手法について比較・検討し、最適解の抽出に向けた検討を行う。

検討結果

対象施設の一括整備・運営のPFI事業スキーム(案)を構築

項目	内容
事業方式	PFI方式(BTO型)
支払形態	混合型(事業者の収入は、サービス購入料+独立採算事業(飲食・物販等及び亀山山頂への送客等の業務)による収入を想定)
事業期間	・設計・建設期間:約2年間 ・維持管理・運営期間:15年間
民間事業者の事業範囲	<ul style="list-style-type: none"> 設計業務 調査業務、設計業務(基本・実施設計)、その他関連業務(各種許可、必要な調査等) 建設業務 建設工事業務、備品等設置業務、工事監理業務、施設引渡業務、その他関連業務 維持管理業務 ウェルカム・ターミナル:建築物保守管理業務、建築設備保守管理業務、備品等保守管理業務、外構等保守管理業務、清掃業務、保安業務、環境衛生管理業務、修繕業務、その他関連業務 シャトルバスまたはリフト:点検及び整備業務、駅舎、停留所等の維持管理業務、その他関連業務 運営業務 ウェルカム・ターミナル:産地直売所関連の運営業務、カフェ等飲食店の運営業務、待合室及び多目的ホール等の運営業務、その他関連業務 シャトルバスまたはリフト:運転・監視業務、営業業務、企画業務、その他関連業務 その他 消耗品事業者負担、光熱費事業者負担

最適な送客手法の整理・抽出を行ったうえで、事業採算性の検討を実施

事業化に向けた課題・展望

ウェルカム・ターミナルに関する前提条件の精査

- 計画予定地及び施設内容・施設規模が基本構想時点から大幅に変更が生じる場合、PFI事業の実施可能性について再度検討を行う可能性も考えられる。

年次計画の精査

- 復興交付金の扱いや計画予定地取得の見通しについて整理する必要がある。

ウェルカム・ターミナルに関する独立採算業務とする部分の精査

- 産地直売所や飲食・物販等の関連業務については、架橋後の観光客の増加により、民間事業者の独立採算による事業実施が期待できる。

亀山山頂への送客に関する独立採算業務とする部分の精査

- 送客手法として最も期待できるのはシャトルバス、ついでリフトであったが、より詳細な採算性検討や民間事業者からの意見徴収、地域住民からの意向等も踏まえたうえで、継続的に検討する必要がある。